

UNIRITA

Magazine

ユニリタマガジン

4

2019

UNIRITAユーザ会

第36回 UNIRITAユーザシンポジウム 開催報告

業務課題解決ソリューション

デジタルトランスフォーメーションを 実現するユニリタクラウドサービス ～マルチクラウド時代のフルマネージドサービスとは?～

製品&サービス最新トピック

ユニリタ製品の 新元号対応に関するお知らせ

システム管理者の会

システム管理者認定講座
2019年度も開講します

パートナー様ご紹介

2019年度もパートナーの皆様と共に
コンサル ～ 運用・インフラまでカバーする提案を目指して

第36回 UNIRITAユーザシンポジウム 開催報告

平成31年3月7日から9日にかけて、第36回UNIRITAユーザシンポジウムをヒルトン福岡シーホークにて開催いたしました。

今年は603名の方にご参加いただき、福岡開催では過去最高の参加人数となりました。

ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。



会期中は会場のメイン通路にパートナーズゾーンを設置し、協賛パートナー企業様ブースをご出展いただきました。各社とも最新のITトレンドに合わせた製品やサービスなど多彩な展示をされ、お客様に熱心にご説明されていました。また、より楽しんでブースにお立ち寄りいただけるよう、豪華賞品が当たるビンゴ形式のスタンプラリーを実施し、非常に多くのお客様にご参加いただきました。

開催1日目のプログラムは、パートナーセッション、事例発表、ユニリタグループセッションがあり、それぞれのセッション会場では多くの方が熱心に聴講されていました。



また、各セッション会場前にはカンロ株式会社様からご提供いただいた飴が振る舞われました。



夕食時に開催された情報交換会では、通常の料理のほか、小岩井乳業株式会社様からチーズ、サッポロビール株式会社様からDewar'sのハイボールをご提供いただきました。美味しい料理とお酒でお客様もすっかり打ち解け、活発に名刺交換や情報交換が行われていました。



2日目には、研究発表、マネジメントセッション、講演会、パネルディスカッションが行われました。各研究グループの1年間におよぶ活動の成果発表となり、熱い発表が繰り広げられました。参加事前登録制のマネジメントセッションは、受付開始後、数日で満員御礼となり、当日は多くの方にご参加いただきました。



そして夜には表彰パーティーが開催されました。パーティーでは、スタンプラリーの豪華賞品当選者の発表や、島谷ひとみさんのショーで盛り上がり、イベントのクライマックスともいえる最優秀活動賞(IW02研究グループ:IoT時代におけるビッグデータ分析)をはじめ、最優秀事例発表賞(株式会社飯田様)など各賞が発表されました。

今回も非常に多くの方にご参加いただき、盛況のうちに終了することができました。これもひとえにご参加いただいた多くのお客様と、お力添えをいただいた協賛パートナー企業様のおかげです。誠にありがとうございました。

来年も第37回UNIRITAユーザシンポジウムの開催を予定しておりますので、ぜひまたご参加いただけますようお願い申し上げます。



昼の講演会では、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授の岸 博幸氏に、ビジネスを取り巻く経済動向とIT戦略についてご講演いただき、多くの方の関心を集めていました。



ITコンシェルジュ ブースを出展しました



ユニリタは、成熟した自社開発製品、専門性に特化したグループ会社、100社以上のパートナー様と共にお客様の課題解決のプランニングをご支援する「ITコンシェルジュ」を目指しています!!

今回、「ユニリタ ITコンシェルジュ」ブースを出展し、200名を超えるお客様から、現在抱えられているIT課題や悩みなど貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見は、今後ユニリタがお客様により良い提案をするための参考にさせていただきます。

お立ちよりいただいた皆様、本当にありがとうございました。

ユニリタ ITコンシェルジュ

お客様の「課題解決」のプランニングをご支援します!

情報システム部

10年後に業界トップになるための体制/基盤を構築したい

経営企画部

利益重視経営で、強固な経営基盤を構築

経営層

働き方改革実現で、3年後には経営権継承を100%円滑で実現

その課題、ユニリタ ITコンシェルジュにご相談ください

グループ総合カメパートナー協働カメコミュニティ
=お客様の悩みごとを解決

グループ協賛カメ

グループが持つあらゆる強みやコアテクノロジーを組み合わせ、最新のITを提供します

パートナー協賛カメ

100社以上のパートナー企業と協働し、お客様の課題に対する最適な提案を構築します

ユニリタ

お客様との技術交流、情報交換を通じ、IT活用を推進します

UNIRITA

平成31年度の研究メンバの募集を開始!

UNIRITAユーザ会では、最新技術やシステムの管理手法・情報活用とシステム運用にまつわる永遠のテーマなどさまざまなテーマについて、1年間にわたって研究できる研究グループを用意しています。多くのお客様において、この研究部会活動をIT部門の人材育成・人脈形成の場として、ご活用いただいています。

5月から始まる今年度の研究部会活動に合わせて、研究部会メンバの募集を開始しました。今年も旬なITトレンドや、若手向けからマネジメント層向けまで、さまざまな研究テーマを用意して、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

東日本、中部、西日本、九州の4地区での研究活動を予定しています。

ご興味のある方は、ぜひご参加ください。来年3月のUNIRITAユーザシンポジウムで活動成果を発表し、一緒に盛り上がりましょう!

研究テーマの詳細・お申し込みはこちらから

<http://www.uniritauser.jp/theme/h31/index.html>



デジタルトランスフォーメーションを 実現するユニタクラウドサービス

～マルチクラウド時代のフルマネージドサービスとは?～

本号では、デジタルトランスフォーメーション（以下、DX）を実現するためのユニタクラウドサービスがどのようなサービスであるのかを、具体的に提案事例を交えて紹介します。

担当者紹介



クラウドビジネス本部
クラウドサービス推進室長
森脇 真吾



クラウドビジネス本部
グループリーダー
宮下 貴行



クラウドサービス推進室
清水 直樹

ユニタクラウドサービスが必要な理由

これまでユニタは、お客様へ「システム運用」と「データ活用」領域のミドルウェア製品・サービスを提供してきました。今も昔もミドルウェアは、システムに必要不可欠な存在であることには変わりはありません。

現在、「ミドルウェアやサービス」は「製品」としての成熟が進み、機能が高度かつ、複雑化しており、有効に活用し高い効果を得るためには、お客様のスキルに依存している状態が続いています。

このような状況のなか、ユニタではミドルウェア製品・サービスに対し、「社内エンジニアのスキル不足」「ライセンスコストの負担」といった課題を解決し、お客様のDX推進に大きく貢献するユニタクラウドサー

ビスを開発・発表いたしました。ユニタクラウドサービスは、クラウドとシステム運用がセットになったフルマネージドサービスです。

今後、お客様のシステム化計画において、必ず必要となる「システム運用」と「データ活用」について、その領域の専門家集団であるユニタに相談ください。お客様が検討している時期や内容に応じて、以下の3つの貢献目的を達成するために、お客様のニーズに合った提案を行います。

お客様の今後のDX推進に対し、ユニタクラウドサービスで提案可能な3つのポイントを実際の事例を交えて紹介します。

3つの貢献目的

1.

ユニタ製品・サービスをご利用いただき、クラウドサービスとしてサブスクリプションモデルで提供することで、お客様のコストの負担軽減に貢献します

2.

ユニタの製品・サービスに限らず、お客様の業務運用、システム運用をユニタが代行し、システムの安定稼働に貢献します

3.

お客様と協働し、蓄積されたお客様のデータ活用を支援し、IT部門のビジネス貢献へのスピードアップに貢献します

DX推進のためにユニタクラウドサービスが提案する3つのポイント

ポイント 1

計画立案や戦略検討といった初期段階から支援します

お客様のシステム環境を見直すタイミングを明確にする必要があります。目まぐるしく変化するビジネス環境のなかで、長期的な計画立案や戦略検討が難しくなっています。事業売上に対するIT投資額の調整や、事業部の人員構成、ベンダ・メーカのシステム化動向などが激しく変化するなか、IT部門のキャパシティといった状況を正しく把握し、IT戦略のかじ取りをする必要があります。ユニタクラウドサービスは、システム化検討の初期段階からお客様を支援するサービスを提供します。

図1はお客様のシステムを見直した分類例です。

図1. 検討シーンごとの戦略例

機能分割・刷新
クラウド上で再構築

機能追加
疎結合型クラウドサービスへ

機能縮小・廃棄
現行システム見直し

現状維持（塩漬け）
疎結合型クラウドサービスへ

事例

機能分割・刷新（クラウド上で再構築）

お客様からのご相談内容

販売管理システムの再構築で今後SaaS型のサービスを採用する予定であるが、これまでと変わらず請求書出力が可能な帳票出力システムを提案してほしい。

ユニタからの提案

帳票出力システム刷新のタイミングでユニタクラウドサービスを活用したユニタ製品の提案を進めました。ユニタとしては、帳票出力システムの範囲だけではなく、帳票出力後のオペレーションから配送までの印刷業務の全般について、業務プロセスを明確にした上でアウトソーシングの提案を実施しました。導入効果として、プリント出力後の手仕分け、IT部門の印刷資源管理（オーバーレイ作成、テスト）、データ異常時の再出力に対する工数、取引先が増加した際の追加・変更作業が不要となりました。また近い将来予定するプリント廃止に伴う電子化対応、PDF文書保管対応についても対応可能となるように将来を見据えた提案を行っています。

ポイント 2

密結合のシステム状態から疎結合システム検討を進める

将来マルチクラウドになることを想定し、現状のシステム課題を明確にする必要があります。特にDX推進をきっかけに密結合から脱却し、疎結合システムを目指すお客様が増えています。

期待する効果として、「開発生産性、運用保守性の向上」、「システム一元化と標準化によるデータ連携本数の削減」、「システムの可視

性向上と統制強化、トレーサビリティの確保」などがあげられます。疎結合に向けたシステム化を支援するユニリタクラウドサービスを提供します。

事例

機能追加(疎結合型クラウドサービスへ)

お客様からのご相談内容

人事システムにSaaS型のサービスを採用する際、基幹システムとのデータ連携に対するカスタマイズが非常に高額になった。今後の費用増を避けるため、連携するデータを容易に加工・編集ができるシステムを提案してほしい。

ユニリタからの提案

人事システム(SaaS型のサービス)と基幹システムを連携するためにユニリタクラウドサービスを活用したデータ連携基盤として提案を進めました。

人事システムだけでなく、社内の他システムとのデータ連携を考慮した基盤構築を提案しました。データ連携基盤は、ユニリタ製品を中心としたシステム構成となっており、今後のデータ連携基盤に対する開発、システム運用をユニリタが代行し、お客様側で行っていたデータ加工、変換に関するジョブ管理、処理構成管理はユニリタがすべてを代行します。得られた効果は、お客様側のエンジニア不足の解消と、データ連携に関する業務の標準化、内部統制強化などで、データ連携にかかる対応時間やコストの大幅削減につながりました。また、結果的に採用するSaaS側へのカスタマイズは不要となり、疎結合システムの実現に繋がっています。お客様の今後の期待は、データ連携のログ分析からお客様社内に対する各事業部への課金、費用配賦をユニリタクラウドサービス活用で対応できるように検討しています。

ポイント 3

データ分析・活用をはじめから悩まず、まずはデータを蓄積する

DX推進に欠かせない迅速な判断を行うためには、データ分析・活用が必須要件となっています。ユニリタでは、どんな分析・活用をするのかの具体的な検討はこれからという場合でもまずは必要なデー

タを蓄積することを推奨し、並行してデータ分析・活用の方法をお客様とともに検討します。その実装の実現にユニリタクラウドサービスを提供します。

事例

機能追加(疎結合型クラウドサービスへ)

お客様からのご相談内容

国内外のさまざまなシステムのバックアップをクラウドへ保管したいため、バックアップ領域(ディスク)を提案してほしい。2次活用の検討はこれからのため、費用をかけず、まずはデータを蓄積してどんなデータ分析や活用ができるのかの相談にのってほしい。

ユニリタからの提案

お客様は老朽化したデータセンターとAWSにバックアップデータを保管していたため、データセンターの設備やBCP対策、データ分析・活用の際に発生する課金に対して不安がありました。お客様にバックアップデータを利用し分析・活用する場合の知見が不足していたため、ユニリタがサポートしながらインフラを構築する提案を実施しました。ユニリタクラウドサービスを提供し、最新のデータセンター(Tier4、日本各地にBCP拠点あり)に移行しデータ蓄積を開始しました。データ分析・活用に対しては、ユニリタクラウドサービスには、レポート作成、ポータル、分析機能、ツールが充実しており、データの2次活用に向けた用意は既にあります。データ分析、活用の観点が決まれば、ユニリタクラウドサービスが活用できるため、お客様からの高い期待をいただいています。

運用レスを現実にする

2018年9月に経済産業省から発表されたDXレポート「2025年の崖」の中では、情報システム部門で運用レスを進める必要性が指摘されています。

お客様の業務価値が刻々と変化している中、マルチクラウド時代で各システム環境を維持管理していく過程では、IT業務の価値を再分析する活動が必要です。DX推進により、システム環境だけクラウドサービスへ移行を済ませても、「社内エンジニアのスキル不足」、「ライセンスコストの負担」は解決できません。

ユニリタクラウドサービスは、お客様の守りのITと攻めのITを実現するために必要なフルマネージド(図2)のご支援を提供することがミッションです。お客様のIT業務には、オンプレミス、メインフレーム、各クラウドサービスなどの環境が乱立し、複雑化しています。ユニリタは、お客様の人材不足、インフラ老朽化、高齢技術者の活用、後継者不足などの悩みを抱えて、やりたいことが進められずにいるお客様に対してフルマネージドサービスの提供することで、運用レスを実現します。

図2. フルマネージドサービス概要



ユニリタに
任せて
本業に注力!



今後のユニリタクラウドサービスの展開にご期待ください。

すでに実績の上がっているお客様の活用事例を順次紹介していきます。次号では、ユニリタクラウドサービスの機能詳細や、製品ロゴなどを発表いたします。

お客様からのご提案依頼、ご相談、ユニリタクラウドサービス環境の試使用、データセンター見学などのご要望につきましては、クラウドサービス推進室までお問い合わせください。

ユニリタ製品の新元号対応に関するお知らせ

2019年5月1日に予定されている改元にあたり、対応の予定されている製品に関し、以下のとおりご案内します。

【ユニリタ製品の改元対応について】

2019年5月1日に予定されている改元は、その詳細の正式発表が2019年4月1日と政府からアナウンスされています。

当社では、該当製品につきましては、4月1日の発表後、迅速に対応させていただきます。

製品の改元対応は、パッチ（修正モジュール）、あるいは設定手順書にて提供することになりますが、パッチにつきましては、各製品の「通常保守および延長保守バージョン」の「最新マイクロリリース」に対してのみ提供となります。

「最新マイクロリリース」はそれまでにリリースされたパッチの集合体であり、パッチを適用するためには、「最新マイクロリリース」へのマイク

ロバージョンアップが必要となりますので、お客様におかれましては、お手数をおかけいたしますが、ご準備のほど、よろしくお願いいたします。

対象製品につきましては下記の「対象製品一覧」をご参照ください。

なお、以下のような場合には、お客様ご自身での対応が必要になりますのでご注意ください。

- ・ スクリプトなどにより独自に和暦計算を行っている場合
- ・ フォームに和暦が埋め込まれている場合
- ・ 全角1文字の「𐤎」「𐤏」など、OSの特殊フォントを印刷に使用されている場合や、外字変換で対象とされている場合

【対象製品一覧】

プロダクト	影響	提供方法	提供時期	提供先バージョン
DURL	フォームのフィールドで和暦を指定した場合、新元号で出力されません。	パッチ※1	元号発表から2週間以内	Windows V5.3 Windows V5.2 RedHat V5.2 その他のバージョンはお問い合わせください
FormHelper	フォームのフィールドで和暦を指定した場合、新元号で出力されません。	パッチ※1	元号発表から2週間以内	Windows V5.3 Windows V5.2 RedHat V5.2 その他のバージョンはお問い合わせください
XRF	フォームのフィールドで和暦を指定した場合、新元号で出力されません。	手順書	元号発表から1週間以内	V3.7.0 V3.6.11
帳票DASH!	フォームのフィールドで和暦を指定した場合、新元号で出力されません。	手順書	元号発表から1週間以内	V2.1.0
Report & Form Warehouse	書式設定や要約関数で和暦を使用する場合、処理が正しく実行されません。	パッチ※1	元号発表から1週間以内	V6.4.5
Waha! Transformer	・ 関数FormatReadでは新元号が入力されるとジョブがエラーとなります。 ・ 関数FormatWriteでは西暦は常に旧元号に変換されます。 ・ レポートオプションにおいて、フォームの日付指定で和暦を指定した場合、新元号で出力されません。	パッチ	元号発表から1週間以内	V5.1.4 V5.0.7 V4.2.13
A-Quality	和暦定義パラメータファイル(NQCPARM)の編集が必要です。	手順書	元号発表から1週間以内	—
Exentry	「和暦」フィールドは平成で固定されており、閏年のチェックのみが行われています。	提供予定無し	—	—
PCentry	新元号で入力される場合は閏年のチェックを外してください。		—	—

※上記の一覧に掲載のないユニリタ製品は、改元による影響はございません。
パッチおよび手順書は、当社サポートホームページからのダウンロードとなります。
ただし、※1の提供方法については、当社担当SEまたは営業までお問い合わせ下さい。

また、当社が取り扱っている他社製品については、一部の製品に影響があります。

詳しくは製品各社のホームページをご参照いただくか、当社担当者までお尋ねください。

システム管理者の会は、システム部門の皆様を応援していくことを活動の指針に掲げ2009年3月に発足し、おかげさまでこのたび活動10周年を迎えました。

あわせて、このタイミングで当会が運営する「システム管理者認定資格」の取得者が1,000名を突破しました。今後も「システム管理者認定資格」のさらなる発展に努めてまいります。

現在、2019年度の受講者を募集中ですので、「システム管理者の会ポータルサイト」よりお申し込みください。

システム管理者認定講座とは?

システム管理者を目指す若手から中堅者を対象にした、スキルアッププログラムです。ヒューマンスキルとテクニカルスキルの両面から、システム管理者に必要な知識や心構えの習得を目的としています。

		1日目 ヒューマンスキル	2日目 テクニカルスキル ナレッジ編	3日目 テクニカルスキル 実践編
上級 コース	事業とITの関係を理解し、全体を見通すことのできる人材を目指す方に。	コンセプチュアルスキル	ITサービスマネージャのための事業関係管理	顧客要件の分析とITサービスマネジメントの実践
中級 コース	IT組織内の活動をリードする立場で、運用改善の実践を主導できる人材を目指す方に。	リーダーシップスキル	運用管理者のためのプロジェクトマネジメント	運用改善プロジェクト計画立案の実践
初級 コース	システム運用管理を確実に実行できる人材を目指す方に。	コミュニケーションスキル	ITサービスマネジメント入門	効果的な運用プロセスの実践

講座の特徴

(1) 各レベルに合わせたカリキュラム

受講者それぞれのレベルに合わせて、必要なスキルや知識を身につけていただけるように、3つのレベルでカリキュラムを構成しています。

(2) 実践的なカリキュラムをプラス

知識のみでなく、体験の中でスキルを習得していただけるように、ディスカッションやグループワークのカリキュラムをヒューマンスキル講座とテクニカルスキル講座にプラスし、知識と体験の両面からより深い習得を目指します。

(3) システム管理者認定資格を授与

最終日に実施する認定試験に合格すると、各レベルに応じた資格を授与します。この資格は、全日本能率連盟の認証資格に登録されており、第三者機関から評価されています。

おつかれ様です。
目指せアドミンマスター



開催日詳細とお申し込み方法

「システム管理者の会ポータルサイト」より、ご希望の日程でお申し込みください。

見る知る学ぶ? → 参加する!

<https://www.sysadmingroup.jp/seminar/>



今年も開催!
「第13回システム管理者
感謝の日イベント」

イベント開催まで
あと
3
Month

7/11 (木)
会場: 大手町日経ホール

ユニリタ Web サイトリニューアル

2019年4月 ユニリタのWebサイトは、よりわかりやすく、探しやすい、見やすいを目指し、フルリニューアルしました。目的に合わせた3つのサイトを公開しています。

①コーポレートサイトをフルリニューアル

ユニリタの情報はすべてここに!
単なる製品紹介だけでなく、お客様の課題に寄り添った解決策を多数ご用意し、よりわかりやすく、探しやすい、見やすいサイトに生まれ変わりました。



②「LMIS」が変わります

「LMIS」を、より詳しく知っていただける専用サイトをオープンしました。ヘルプデスクやサービスデスクに課題をお持ちのお客様、ぜひご覧ください!



③メディアサイト「ide a ru(アイディアル)」を新設

これまで「ユニリタブログ」としてさまざまなITに関する情報を発信してきましたが、ブログの枠を飛び越え、+αの気づきをいただけたメディアサイトとしてリスタートしました!



【予告】「AI・業務自動化展」に出展 AI・業務自動化で生産性を向上し、働き方改革を実現

昨年に引き続き、国内最大級のITイベントJapan IT Week 春(後期)「第2回 AI・業務自動化展 春」に出展します。

働き方改革を実現するには、実際の業務に合わせたAIやRPAなどによる業務自動化により生産性の向上をはかる必要があります。お客様の業務プロセスを可視化・分析し、業務に合わせた効率化や、またリモートワークやモバイルワークの推進、情報共有、コミュニケーションの活性化により生産性の向上を支援し、働き方改革を実現するソリューションの展示を行います。

ご興味のある方は、ぜひユニリタブースでお立ち寄りください。

2019 Japan IT Week 春 後期 内

第2回 AI・業務自動化展 春

会 期: 2019年5月8日[水]~10日[金]

会 場: 東京ビッグサイト青海展示棟(東京レポーター駅徒歩2分)

主 催: リード エグジビション ジャパン株式会社



2019 年度もパートナーの皆様と共に コンサル～運用・インフラまで カバーする提案を目指して

正規販売パートナー様は107社、パートナー様との協業モデルも45モデルに増加。
2019年度も販売パートナー様と共にビジネスを躍進し続けます。

ユニリタはパートナー様とお客様の課題解決のための協業モデルを提供しています。

パートナー様とユニリタが、それぞれ得意としている製品・サービス・ノウハウを組み合わせる新たな付加価値を創り、他社にはないユニークなソリューション「協業モデル」をユーザ企業様に提供しております。
現在45の協業モデルをラインナップしており、多くのお客様にご採用・

ご利用いただいております。

ユニリタは、今年度もパートナー様との「協業モデル」を推進し、パートナー様と共にお客様の課題解決や新たな価値の提供をしていきますので、ご期待ください。

ユニリタと新しいビジネスモデルを作りませんか？

ユニリタでは、パートナー様のビジネスにあわせて柔軟な協業モデルやサービス形態を提案し、販売活動を全面的に支援します。当社との協業モデル構築にご興味がありましたら、お気軽にご相談ください。
当社製品のお取り扱い、およびパートナービジネスについてのお問い合わせは、パートナービジネス部 (up@unirita.co.jp) までお問い合わせください。

パートナー様

- ・各社様が得意とする独自のビジネスモデル
- ・業界、業種特有のナレッジや情報の共有
- ・お客様の要求に 대응するSI

協業モデル



ユニリタ

- ・新規需要と関連性が高く、シェアの高い製品群
- ・基幹系システムのノウハウ
- ・国内最大規模の2つのネットワークコミュニティ

ユニリタ HP リニューアル

パートナー様ご紹介ページが新しくなりました!!

パートナープログラムやパートナー様一覧などの情報を発信するページにリニューアル。

パートナー様と共にお客様の課題解決をいたします。

掲載内容

- NEW** パートナープログラムの紹介
- NEW** 協業モデル情報・活用事例の公開
- UPDATE** 正規販売パートナー様の一覧・取り扱い製品情報 など



パートナー様の販売活動を全面的にご支援します!

- ▶ パートナー様向け説明会の実施
- ▶ デモ・提案ツールのご提供
- ▶ お客様へのデモ・説明会訪問
- ▶ 弊社マーケティング施策による案件創出支援
- ▶ 弊社イベント・雑誌掲載などの販売促進支援 など

第36回UNIRITAユーザシンポジウム 19社がパートナーブースを出展!

3月7～9日に開催した第36回UNIRITAユーザシンポジウムでは、協業モデルを中心としたソリューションをご紹介いただきました。



2019年度パートナービジネス部 メンバーを紹介します!

各営業所によるご支援



小野

中西

三澤

西日本
ユニリタプラス
(2017/4～)

東日本
本社
名古屋事業所

東日本

UNIRITA



金子

加藤

瀬木

田中

水原

市川

金具

小柳

若松

NEWメンバー

清野

奥村

湊



株式会社ユニリタ www.unirita.co.jp

本社 〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟 TEL 03-5463-6383
名古屋事業所 〒451-0045 名古屋市中区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル(1B48KTビル) TEL 052-561-6808

ユニリタグループ

株式会社アスペックス / 株式会社ビーティス / 株式会社データ総研
備実必(上海)軟件科技有限公司 / 株式会社ビーエスピーソリューションズ
株式会社ユニ・トラント / 株式会社ユニリタプラス / 株式会社無限